都市再生整備計画　フォローアップ報告書
福岡市西部地域地区

平成29年3月

福岡県福岡市

1．数値目標の達成状況の確認（確定値）

様式4－①　都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指　標		単位	従前値	目標値	事後評価						フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別		目標達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性	
指標1	駅利用者数	人/日	8,700	10,600	15,328	確定 見込み	●	○	あり なし		15,860	平成28年5月	○	－	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	土地区画整理事業に伴う計画地区の人口増加、九州大学移転に伴う学生・教職員の増加等により、通勤・通学者が増加している。また、九大学研都市駅前に立地した「さいとぴあ」利用者、九州大学を会場とするイベントや国際会議参加者も当該駅を利用することから、目標値を大きく上回った。
指標2	バス利用者数	人/日	2,050	2,400	4,799	確定 見込み	●	○	あり なし		4,382	平成28年5月	○	－	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	九州大学移転に伴う学生・教職員の増加等により通勤・通学者が増加している。また、九州大学では、大学と地域の交流イベントや国際会議等も開催されており、バス利用者が目標値を大きく上回った。
指標3	民間等との共同研究実施件数	件/年	612	646	703	確定 見込み	●	○	あり なし		740	平成28年11月	○	－	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	「産学連携交流センター2号棟」や「有機光エレクトロニクス実用化開発センター」の整備により、産学連携を促進する研究開発施設が拡充した。さらに、産学官連携支援活動を進めたことで、民間等との共同研究実施件数は目標を達成した。
指標4	留学生数	人	1,509	1,790	2,097	確定 見込み	●	○	あり なし		－	－	－	－	□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	九州大学内外において水素関連や有機ELの研究施設が数多く立地するなど、大学の魅力が向上している。また、土地区画整理事業による安全で快適な環境の整備の進展など、まちの魅力も向上していることから、留学生数は目標を達成した。
指標5	人口の定着	人	27,100	28,700	36,034	確定 見込み	●	○	あり なし		37,962	平成28年9月	○		□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	計画地区では、土地区画整理事業等により安全で快適な居住環境が整備された。また、九大学研都市駅や「さいとぴあ」、大規模商業施設が立地する生活利便性の高い地域として、まちの魅力も向上している。そのため、計画地区の人口増加率は市全体よりも高い伸びを示し、目標値を大きく上回った。
指標6	公民館利用者数	人/年	26,200	26,200	26,932	確定 見込み	●	○	あり なし		28,987	平成28年5月	○		□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	公民館と老人いこいの家を合築した「今宿公民館」では、地区コミュニティ拠点としての機能向上が図られたことで利用者数が増加した。平成27年度末完成予定の「玄洋公民館」は、現状では利用者が微減しているものの、両公民館の平均利用者数としては目標を達成した。

事後評価シート　様式2-1及び添付様式2-①から転記　※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4－②　その他の数値指標の確定

指　標		単位	従前値	目標値	事後評価				ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟによる確定値	計測時期	ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1						確定 見込み				H　年　月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2						確定 見込み				H　年　月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み				H　年　月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート　様式2-1及び添付様式2-②から転記　※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4－③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート　添付様式5－③に記載した今後のまちづくり方策（事項）		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題　その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	・産学連携の取り組みの強化	・元岡土地区画整理事業地内への研究開発機能の立地誘導を行った。 ・産学官で連携した支援活動を実施した。	・産学連携交流センターの入居率が9割を超えるなど，産学連携の取組みが活発になった。	・元岡土地区画整理事業地区における研究機関の集積に向けてさらに取り組みを進める必要がある。 ・平成30年度の農学系・文系の伊都キャンパス移転を見据え，産学連携の取り組みを強化する必要がある。
	・安全で快適な居住環境の充実	・福岡志摩線（元浜）の整備を行った。 ・学園通線の整備を行った。	・福岡志摩線の歩道拡幅によって安全な歩行空間が確保された。 ・学園通線の2車線による暫定供用開始に伴い，平成29年4月から昭和バス九大線の直通便が学園通線を通行を予定するなど，交通の利便性が高まることが期待される。	・更に快適な通勤・通学環境整備のため，引き続き学園通線の早期完成（4車線供用）に向けて整備を進める必要がある。
	・地区コミュニティ活動の場の整備	・公民館，老人いこいの家整備を行った。 ・大学と地域の連携・交流促進事業を実施した。	・公民館の利用者が増加した。	・地域のコミュニティ活性化のため，引き続きコミュニティ活動の場を整備していく必要がある。
	・九州大学を活かした地域づくりの推進	・大学と地域の連携・交流促進事業を実施した。 ・地域代表者による伊都キャンパス見学会の開催など，地区コミュニティ活動を支援した。	・地域と九大教職員や学生との間に新たな連携の動きが生まれている。	・引き続き，九州大学を活かした地域づくりのため，連携強化に向けて取り組む必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他　必要な改善策	・九大学研都市駅における交通結節機能の強化	・昭和バス九大線の直行便について，学園通線を利用するバス路線にルート変更を予定（平成29年4月）。 ・ルート変更に併せて，直行便の増便を予定（平成29年4月）。	・ルート変更によって，所要時間の短縮が見込まれる。	・平成30年度の農学系・文系の伊都キャンパス移転を見据え，九大学研都市駅の駅前広場の改良など，交通結節機能の強化に向けて取り組む必要がある。
	・地区内における円滑な交通の確保	・学園通線（田尻）の整備を行った。	・学園通線の2車線による暫定供用開始に伴い，平成29年4月から昭和バス九大線の直通便が学園通線を通行を予定するなど，交通の利便性が高まることが期待される。	・円滑な交通確保のため，引き続き学園通線の早期完成（4車線供用）に向けて整備を進める必要がある。

事後評価シート　添付様式5－③から転記

様式4－④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題　その他特記事項

都市再生整備計画（清算報告）

福岡市西部地域地区

福岡県　福岡市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	地区名	福岡市西部地域地区	面積	約720 ha

計画期間	平成 23 年度 ～ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ～ 平成 27 年度

目標

大目標 ： **知の創造空間"九州大学学術研究都市"の顔となる福岡市西部地域の拠点づくり**

目標１ ： 都市機能の高質化と交通結節機能の更なる強化により、九州大学学術研究都市の玄関口としてふさわしい地域拠点の形成をめざす

目標２ ： 九州大学の知的財産を活用し、知の交流・創造活動を軸とした産学連携・研究開発拠点の形成をめざす

目標３ ： 都市機能の充実による生活利便性の向上や更なる安全で快適なコミュニティ形成等により、計画地区における定住促進をめざす

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○本地区は、福岡市の都心から西約15kmに位置し、広域交通幹線である国道202号、国道497号（西九州自動車道）、JR筑肥線が地区を横断している。周辺は海、山、田園景観など、豊かな自然環境に恵まれた地区である。
○平成17年９月には、九州大学の第１期移転に合わせ、本地区の玄関口としてJR九大学研都市駅が開設され、交通結節機能の強化が図られた。
○本地区を含む区域は、市の新・基本計画で新たな拠点地域に位置づけられており、平成13年６月に策定された「九州大学学術研究都市構想」を踏まえ、九州大学の統合移転を契機に、平成20年4月には「福岡市産学連携交流センター」が開設され、地元産学官による新たな学術研究都市づくりが進んでいる。
○九州大学新キャンパスの整備に加え、関連する道路網整備や土地区画整理事業による宅地開発が進行中であり、学生・教職員や新規住宅購入者等による人口増加が著しい。
○平成21年4月には九州大学の第2期移転が完了し、学生・教職員合わせて約1万800人が移転している。平成30年度には約１万8,700人が伊都キャンパスに移転する予定である。
○平成22年７月にはJR九大学研都市駅南側に、西部地域交流センターと西区西部出張所と西部図書館が複合された施設「さいとぴあ」が開設された。

課題

・新たな拠点である「地域交流センター」や「産学連携交流センター」等の整備により、まちの賑わいや産学連携の強化が図られたが、今後も定住人口の増加や企業進出等が見込まれることから、賑わいの持続やさらなる産学連携の取り組みの強化を図る必要がある。
・第一期都市再生整備計画事業により、一定の都市基盤整備は図られたが、全体事業としては一部未完成であり、安全で快適な定住環境の充実のため、伊都土地区画整理事業の早期完成が必要である。また、増加するJR九大学研都市駅利用者の利便性向上に資する交通結節機能の強化が必要である。
・急激な定住人口の増加や留学生や研究者との国際的な人的交流の促進に伴い、コミュニティ活動の支援や学校施設をはじめとした生活基盤施設の拡充等が必要である。
・安全で快適な都市基盤整備のため、九州大学とJR九大学研都市駅を結ぶアクセス道路の整備を継続して実施する必要がある。

将来ビジョン（中長期）

[福岡市　新・基本計画(全市編)：平成15年3月](目標年次：2015年)※1
『自由かつ達で人輝く自治都市・福岡をめざして　～九州、そしてアジアの中で～』を新しい福岡づくりの基本方向とし、多核連携型都市づくりを推進
◆今宿・周船寺：地域拠点
土地区画整理事業やJR新駅の開設を契機に、西部地域の新たな核として、また、学術研究都市の玄関口として、交通結節機能の強化や地域交流センターの整備、商業機能の充実をめざす。
◆西部地域(九州大学～今宿・周船寺)：新たな拠点地域
九州大学を核とした学術・研究機能が集積し、学生や教職員、民間企業を含めた研究者等が、豊かな自然環境のなかで新たな知を創造し、発信する学術研究都市づくりを進め、今宿・周船寺地区との連携を図りながら、本市西部地域における新たな拠点地域の形成をめざす。

[福岡市　新・基本計画(西区基本計画)：平成15年3月](目標年次：2015年)※1
～三つの宝「自然」「市民」「大学」で～　1．美しい水が"循環"し、　2．ぬくもりのある心が"交歓"し、　3．魅力ある町に"転換"する　を将来像とし、主要プロジェクトとして
①「タウン・オン・キャンパス」の展開・・・学術研究都市の"顔""シンボル"として、研究開発、国際交流、地域との連携や居住などの多様な機能の導入
②拠点間の連携強化・・・今宿・周船寺につながるアクセス道路整備、JR新駅の設置
③新たな市街地の形成・・・伊都土地区画整理事業によるアメニティ空間の創出、及び学術研究都市の玄関口として交通結節機能の強化や商業機能の充実、田尻土地区画整理事業による大学関係者などの居住地形成

[福岡市都市計画マスタープラン(西区版)：平成13年5月]※2
○JR新駅を中心とした地区を準地域中心核と位置づけ、地域交流センター等の複合施設や行政サービス、商業等の機能が集積した西部地域の拠点としている。
○今宿・周船寺地区～九州大学新キャンパス間については、農業・集落ゾーン、低層住宅ゾーン、さらに学園通沿道についてはプロジェクトと連携しながら将来像を検討するゾーンと位置づけている。

[九州大学学術研究都市構想：平成13年6月]
福岡市から唐津市に至る玄海灘に面するゾーンを対象エリアに、「知の創造空間」の構築に向け2つの核となる戦略で構成
◆ソフト戦略　：『知の交流・創造活動を促進する地域科学技術システムの構築』
◆ハード戦略　：『知・住・悠の舞台となる快適空間の形成』
※1：第9次福岡市基本計画（平成24年12月改定）　※2：福岡市都市計画マスタープラン（平成26年5月改定）

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅利用者数	人/日	JR九大学研都市駅の１日あたりの乗降客数	都市機能の集積及び各種交流機会の創出により地区の玄関口である当駅の利用者数が増加する。	8,700	H21	10,600	H27
バス利用者数	人/日	昭和バス九州大学線の１日あたりのバス乗客数	交通結節機能の強化により地区の玄関口であるJR九大学研都市駅周辺のバスの利用者数が増加する。	2,050	H21	2,400	H27
民間等との共同研究実施件数	件/年	九州大学における民間等との共同研究実施件数	産学連携拠点づくりの推進により知の交流・創造活動が図られ、民間等との共同研究が増加する。	612	H21	646	H27
留学生数	人	九州大学に在学する留学生数	産学連携の拠点づくりが推進されることにより、国際交流が活発化することで留学生数が増加する。	1,509	H21	1,790	H27
人口の定着	人	地区内の居住人口	快適な居住空間の創出により地区内人口が増加する。	27,100	H21	28,700	H27
公民館利用者数	人/年	地区内公民館1館あたりの年平均利用者数	コミュニティ活動の拠点である公民館の利用者数が減少傾向にあるため、新たに快適で利便性の高い公民館を整備することで、地区内の公民館利用者数の減少に歯止めを掛け現状維持する。	26,200	H21	26,200	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針１　：　西部地域の新たな拠点形成のための都市機能の高質化や交通結節機能の強化を図る。 ・本市西部地域の新たな拠点づくりのため、土地区画整理事業等の面的整備を推進し、都市機能の高質化やアメニティ空間の創出を図る。 ・九州大学と地域の玄関口である九大学研都市駅周辺を連携する幹線道路整備を推進し、交通結節機能の強化と都市交通の円滑化を図る。 ・公共交通機関利用者の利便性を向上させるため、アクセス道路の整備や歩行者支援施設の整備を図る。	・道路事業（基幹事業/学園通線（田尻）、福岡志摩線（元浜）、今津埋立場周辺道路） ・道路事業（関連事業/大原周船寺停車場線（周船寺駅前交差点）、福岡志摩線（田尻）） ・伊都土地区画整理事業（基幹事業・関連事業） ・元岡土地区画整理事業（関連事業） ・第二産学連携交流センター（提案事業） ・有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター（提案事業） ・産学官連携支援活動（広報・啓発・人材育成）（関連事業） ・大学と地域の連携・交流促進事業（関連事業） ・九州大学外国人研究者等宿泊・集会施設整備事業（関連事業） ・地域生活基盤施設（基幹事業/九大学研都市駅自転車駐車場） ・地域生活基盤施設（基幹事業/山の鼻1号墳）
整備方針２　：　九州大学学術研究都市を中心とした産学連携を充実するための拠点施設の整備促進や産学連携の活性化を図る。 ・本市における産学連携の先導的施設である産学連携交流センターの機能・規模を拡充した第二産学連携交流センター及び有機光エレクトロニクスの最先端の研究成果を産業界に橋渡しする拠点施設である有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター（仮称）を整備することで、企業・研究機関の立地等の促進や研究開発機能の高度化、新たな産業・技術の創出等、地域産業の振興を図る。 ・九州大学を中心に産学官との連携や地域との交流を推進するための広報、啓発、人材育成、イベント等を行い、大学や企業の社会貢献を促すとともに、市民生活の質の向上を図る。	・第二産学連携交流センター（提案事業） ・有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター（提案事業） ・伊都土地区画整理事業（基幹事業・関連事業） ・元岡土地区画整理事業（関連事業） ・産学官連携支援活動（広報・啓発・人材育成）（関連事業） ・大学と地域の連携・交流促進事業（関連事業） ・九州大学外国人研究者等宿泊・集会施設整備事業（関連事業） ・道路事業（基幹事業/学園通線（田尻）、福岡志摩線（元浜）） ・道路事業（関連事業/大原周船寺停車場線（周船寺駅前交差点）、福岡志摩線（田尻）） ・地域生活基盤施設（基幹事業/九大学研都市駅自転車駐車場）
整備方針３　：　地域コミュニティの拠点づくりと快適居住環境の整備推進を図る。 ・土地区画整理事業・道路整備等の安全で快適な居住環境を創出する都市基盤整備を進め、地区居住者の生活利便性の向上を図る。 ・公民館等をはじめとした地域生活基盤施設の整備を進め、地域コミュニティの活性化や大学と地域の連携・交流促進を図る。	・高次都市施設（基幹事業/公民館（今宿、玄洋）） ・伊都土地区画整理事業（基幹事業・関連事業） ・元岡土地区画整理事業（関連事業） ・道路事業（基幹事業/学園通線（田尻）、福岡志摩線（元浜）、今津埋立場周辺道路） ・道路事業（関連事業/大原周船寺停車場線（周船寺駅前交差点）、福岡志摩線（田尻）） ・公園（基幹事業/伊都2号公園） ・地域創造支援事業（提案事業/老人いこいの家（今宿、玄洋）） ・大学と地域の連携・交流促進事業（関連事業） ・九州大学外国人研究者等宿泊・集会施設整備事業（関連事業） ・地域生活基盤施設（基幹事業/九大学研都市駅自転車駐車場） ・地域生活基盤施設（基幹事業/山の鼻1号墳）

その他

平成13年6月　：　九州大学学術研究都市構想の策定
平成16年6月　：　地域再生計画の認定

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	8,218.9	交付限度額	3,287.5	国費率	0.40
うち、社会資本整備総合交付金対象事業　計	6,961.4	うち、社会資本整備総合交付金対象事業　計	2,784.5		
うち、地域自主戦略交付金対象事業　計	1,257.5	うち、地域自主戦略交付金対象事業　計	503.0		

（金額の単位は百万円）

基幹事業①社会資本整備総合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
道路		学園通線（田尻）	福岡市	直	L＝1,360m	H23	H28	H23	H27	4,356.0	2,774.3	2,774.3	0.0	2,774.3	
道路		福岡志摩線（元浜）	福岡市	直	L＝980m	H23	H27	H23	H27	597.7	464.3	464.3	0.0	464.3	
道路		今津埋立場周辺道路	福岡市	直	L＝850m	H23	H26	H23	H26	158.4	135.9	135.9	0.0	135.9	
公園															
古都及び緑地保全事業															
河川															
下水道		―			―										
駐車場有効利用システム		―			―										
地域生活基盤施設		九大学研都市駅自転車駐車場	福岡市	直	自転車駐車場1,300台	H26	H27	H26	H27	161.5	161.5	161.5	0.0	161.5	
地域生活基盤施設		山の鼻１号墳	福岡市	直	6,913㎡	H27	H27	H27	H27	68.8	68.8	68.8	0.0	68.8	
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター	公民館（今宿、玄洋）	福岡市	直	―	H24	H27	H24	H27	417.1	417.1	417.1	0.0	417.1	
中心拠点誘導施設															
生活拠点誘導施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業		伊都土地区画整理事業	福岡市	直	130.4ha	H9	H26	H23	H25	3,877.0	1,399.2	1,399.2	0.0	1,399.2	
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										9,636.5	5,421.1	5,421.1	0.0	5,421.1	…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
道路		学園通線（田尻）	福岡市	直	L＝1,360m	H23	H28	H24	H24	4,356.0	1,032.0	1,032.0	0.0	1,032.0	
道路		福岡志摩線（元浜）	福岡市	直	L＝980m	H23	H27	H24	H24	597.7	133.4	133.4	0.0	133.4	
道路		今津埋立場周辺道路	福岡市	直	L＝850m	H23	H26	H24	H24	158.4	22.5	22.5	0.0	22.5	
公園		伊都2号公園	福岡市	直	A=1.6ha	H23	H24	H24	H24	69.6	69.6	69.6	0.0	69.6	
河川															
下水道		―			―										
合計										5,181.7	1,257.5	1,257.5	0.0	1,257.5	…A''

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載　　※H24以降を記載　　※H24以降分を記載

基幹事業　総計（①＋②）

総計										14,818.2	6,678.6	6,678.6	0.0	6,678.6	…A=A'+A''

提案事業①社会資本整備総合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業	第二産学連携交流センター	元岡地区	福岡市	直	－	H23	H25	H23	H25	1,269.8	1,269.8	1,269.8	0.0	1,269.8	
	有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター	元岡地区	福岡市	直	－	H23	H23	H23	H23	211.2	211.2	211.2	0.0	211.2	
	老人いこいの家	今宿、玄洋	福岡市	直	－	H24	H27	H24	H27	54.8	54.8	54.8	0.0	54.8	
事業活用調査	効果発現調査	－	福岡市	直	－	H27	H27	H27	H27	4.5	4.5	4.5	0.0	4.5	
		－			－										
まちづくり活動推進事業		－			－										
		－			－										
合計										1,540.3	1,540.3	1,540.3	0.0	1,540.3	…B'

提案事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業															
事業活用調査		－			－										
		－			－										
まちづくり活動推進事業		－			－										
		－			－										
合計										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	…B''

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載　　※H24以降を記載　　※H24以降分を記載

提案事業　総計（①＋②）

総計										1,540.3	1,540.3	1,540.3	0.0	1,540.3	…B=B'+B''

合計(A+B)	8,218.9

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○）直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
伊都土地区画整理事業	西区徳永・女原・今宿地区等	福岡市	直	130.4ha		○			H9	H26	36,823.0
元岡土地区画整理事業	元岡地区	元岡土地区画整理組合	間	16.2ha				○	H21	H24	2,190.0
道路事業	大原周船寺停車場線（周船寺駅前交差点）	福岡市	直	L=160m		○			H23	H27	846.0
道路事業	福岡志摩線（田尻）	福岡市	直	L=1,040m		○			H24	H28	193.0
九州大学外国人研究者等宿泊・集会施設整備事業	元岡地区	九州大学	間	－		○			H22	H23	570.0
産学官連携支援活動（広報・啓発・人材育成	計画地区全体	福岡市	直	－			○		H10	継続的に実施	
大学と地域の連携・交流促進事業	計画地区全体	福岡市	直	－			○		H10	継続的に実施	
有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター（仮称）整備事業	元岡地区	（財）福岡県産業・科学技術振興財団	間	－		○		○	H23	H24	952.7
合計											41,574.7